

## 地震被災地にも皆さんと同じ中学生がいる

令和6年が、大きな災害、事故、事件とともにスタートしました。特に「能登半島地震」においては、亡くなられた方、未だ倒壊家屋の下敷きとなっている方など、元日から報道されるニュースに大きく心を痛めることとなりました。知立市においても震度4を観測し、最近にはない数字に驚くと共に、ほとんど被害がなかったことに安心しました。しかし、本来ならば、新たな一年を希望や笑顔で迎えようとしていたところへの「能登半島地震」の発生は、被災地の方々の心中や苦労、今後への不安な思いを考えると被害のない我々にとっても大変複雑な心境となりました。そして、被災地にも多くの中学生が生活をしており、とりわけ3年生は、自らの進路に向け、一生懸命であったことでしょう。

まずもって、今回の地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りすると共に、一日でも早い被災地の復興を願うばかりです。我々としても、これまで以上に防災教育並びに避難訓練等に工夫を加えるなど、自然災害等に対する備えに力を注がなければならないと強く感じました。

## 避難訓練を行いました

秋に予定していた避難訓練が、雨天中止となったため、1月9日（火）に臨時で行いました。今回は、生徒へは予告しないことと、避難経路の数か所を危険個所として封鎖するなどの工夫を加えて行いました。



まさか、1月1日に「能登半島地震」が起こるなど夢にも思っていなかったのですが、生徒と共に自然災害への備え、避難訓練に対する心構え等、あらためて考えることができました。訓練の終わりの校長の話においては、「生徒にとって最も安全なのは、学校にいる時間なのかもしれない。学校には、先生方がおり、その指示に従って行動したり避難したり



することで命を守ることができる。しかし、今回の能登半島地震のように、家庭や地域にいた際に落ち着いて適切な行動がとれるか。また、自宅の災害対策は万全か等、学校外で自然災害に遭った場合の自身の動きなどを考えて欲しい。」と伝えました。話を聞く生徒たちの真剣な表情からは、いつも以上に緊張した様子がみられました。

## 選ばれる知中生を目指して

「生徒一人一人のよさをとらえ、活動を支え、力を伸ばす学校」を目標に進めてきた令和5年度も残すところ暦の上では3ヶ月となりました。2024年最初の全校集会では、「選ばれる知中生とは」という点で次のように生徒に話をしました。これは、毎年、入学説明会で6年生に向けて話している内容でもありますので紹介します。

『選ばれる』とは、学級役員などリーダーとなって人前に立ち、周りを引っ張っていく物事を中心となる行いなどを指しているのではなく、トイレのスリッパを揃える、人の話を聞く、授業を真剣に受ける、提出物を出す、時間を守る、掃除をきちんとやる、ルールを守るなど、自然で普通で当たり前のことを当たり前に行うことを指しています。人前に立ち、周りを引っ張っていける資質や能力は誰にでも備わっているものではありません。しかし、トイレのスリッパを揃える資質や能力がないという人はいないと思います。これらの行為は、一見地味で特別なことには思えませんが、それこそが、周りから認められ、選ばれる上でもっとも大切なことだと思います。自然で普通で当たり前のことが当たり前にできる自分を目指していくことこそが、『選ばれる』ということなのです。」

さて、冬休みを終え1月9日から授業が再開しました。昨年は様々な行事や活動等に、保護者の皆様並びに地域の方々に御参加いただくと共に、心温まる御支援・御協力をいただきました。誠にありがとうございました。本年も知立中学校の生徒のために、教育活動の様々な面で相変わらぬ御指導と御協力をよろしくお願いいたします。

## 2024年がスタートしました

コロナ禍において行事や学校生活は様々な工夫が加えられ、そして現在は、それらの工夫の内、効果的なものは残す等、ただ単に以前に戻すだけではなく新たな学校の在り方が問われていると痛感しています。本校においても全校集会等は、リモートで行うことが継続されています。体育館に一同に会するための移動時間の短縮や、各クラスに居ながらにして伝達表彰の様子や先生方の話を大型モニターを通して視聴することができるこの形は、快適な環境で落ち着いてしっかりと話を聞くことができます。2024年も教育効果の高い取り組みを考えていきたいと思っています。

冬休み明け初日は、書初め会もありました。静かな環境のもと、どの生徒も真剣に書初めに取り組んでいました。とても落ち着いた良い雰囲気です。2024年もスタートできたと感じています。

